

1-5 インド学仏教史

研究・教育活動の概要と特色

本研究室は、インドの古代および中世において成立した思想と文化およびその発展を、主に古典語であるサンスクリット語で残された文献、およびチベットで成立した仏教文献から解明する研究をその活動の中心に据えている。近年のインドは経済的発展が著しいけれども、インド人の旺盛な知的活動の背後には、鋭い言語感覚に裏打ちされた古典文化の歴史的伝統がある。在俗の司祭階級であるバラモンたちは、古代において宗教文献ヴェーダとサンスクリット語文典を確立し、また王家の英雄物語から浩瀚な叙事詩を編纂し、中世以降は様々な分野の学術書と共に、民間の宗教信仰を形にした神話文献群を作りだした。人生苦を克服するための出家教団として出発した仏教は、やがて他者救済を掲げる大乘仏教を生み出し、さらにバラモンの哲学学派と対抗しつつ、感覚と儀礼を重視する密教へと変貌する。これら多様な分野のいずれにも多くの原典が残されており、精密に仕組まれた古典語を文法的に正確に理解し、かつ先行研究を十分に踏まえることにより文献上の証拠固めをした上で、緻密な体系性と豊かな想像力を兼ね備えた古典インド文化を新たに解明していくことを、本研究室ではおこなっている。

二名の専任教員のうち吉水は、中世初期のヒンドゥー教興起の時代を中心として、バラモンたちがヴェーダの伝統の継承と他学派との論争を通じて、インド社会の中で人間の認識能力と行為規範をどのように考えたかを研究している。桜井は、インド、チベットのタントラ仏教を中心に未開拓の分野の解明に努め、さらに、インドからチベットへの仏教流伝の経過と、チベットにおける咀嚼・展開の具体像を考究している。後進が育ちつつある分野は、ヴェーダ文献を中心とする文法、祭式、思想、ウパニシャッドから仏教興起時代にかけての宗教・思想、古典期の占い文献、初期仏教、インド・チベット仏教の儀礼と思想などであり、国内外の専門家と協力して研究を進めている。また宗教学専攻分野と協同運営する「印度学宗教学会」は、文献研究の方法・成果を宗教学、民俗学、民族学と相互検証する機会として機能している。

I 組織

1 教員数（2013年9月末現在）

教授：2

助教：1

教授：桜井宗信，吉水清孝

助教：尾園絢一

2 在学生数（2013年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
8	0	1	4	0

3 修了生・卒業生数（2009～2013年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (満期退学者)
09	2	1	0
10	1	0	0
11	0	2	1
12	1	1	1
13	1	0	0
計	5	4	2

* 2013年度は、9月末までの数字

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2009～2013年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
09	0	0	0
10	0	1	1
11	0	0	0
12	1	0	1
13	0	0	0
計	1	1	2

* 2013年度は、9月末までの数字

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

村上幸三，2010 年度，「シャンカラにおける無明の神学」（論文博士），
審査委員：教授・後藤敏文（主査），教授・桜井宗信，教授・鈴木岩弓，
准教授・吉水清孝

山田智輝，2012 年度，「संveda における Sarasvatī の研究 — 河川の女神の諸
相」（課程博士），審査委員：教授・吉水清孝（主査），教授・桜井宗信，
教授・鈴木岩弓

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
09	5	1	1	0	7
10	4	1	0	0	5
11	8	0	0	0	8
12	5	0	2	0	7
13	3	0	0	0	3
計	25	2	3	0	30

* 2013 年度は 9 月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
09	3	4	0	0	7
10	3	10	0	0	13
11	2	9	0	0	11
12	2	9	1	0	12
13	0	6	0	0	6
計	10	38	1	0	49

* 2013 年度は 9 月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

- 伊久間洋光 「智光明莊嚴經をめぐって—『宝性論』『自然不休息仏業品』及び『性起經』との関係を中心に—」『印度學佛教學研究』, 第 59 卷, 第 1 号, p.391—395, 2010 年.
- 伊久間洋光 「『如来秘密經』と『勝天王般若』の対応関係について」『印度學佛教學』, 第 60 卷, 第 2 号, p175~p179, 2012 年 3 月.
- 伊久間洋光 「『如来秘密經』の梵文写本について」『印度學佛教學研究』第 61 卷第 2 号, 2012 年.
- 伊久間洋光 「如来を分別する—『如来秘密經』の伝をめぐって—」『豊山教学大会紀要』 41, pp.21-36, 2013 年
- 伊久間洋光 「金剛手の授記—『如来秘密經』を中心に—」『密教学研究』 46, 2013 年 (掲載予定)
- Junichi OZONO “Das Vedische bei Pāṇini,” Studien zur Indologie und Iranistik, Band 27, (2010), pp. 237—256, (2011 年 10 月刊行) .
- 笠松直 「Maitrāyaṇī Samhitā「祭火の礼拝」章の構成について」『印度學佛教學研究』第 57 卷第 2 号, 2009 年.
- 菊谷竜太 「インド密教における『秘密集会タントラ』の受容と展開」『日本佛教学会年報』 77 号, pp.213-235, 2012 年.
- Ryuuta KIKUYA "Reconstruction of Buddhaśrījñāna's *Caturaṅga-sādhana-Samantabhadrī", Journal of Indian and Buddhist Studies (Indogaku Bukkyōgaku Kenkyū), Vol. LX No.3, pp.1264—1270. 2012 年 3 月.
- Ryuuta KIKUYA "The Transmission of Utpattikrama Theory of Jñānapāda School in Guhyasamāja Cycle", The Mikkyo Bunka (Quarterly Reports on Esoteric Buddhism), 2013 年 (掲載予定) .
- スダン・シャキヤ 「仏教文献に見られる文殊の解釈の展開について」, 『密教学』 45 号, 2009 年.
- スダン・シャキヤ 「お釈迦さまのふるさと ネパールの仏教 (1) (2)」, 『大法輪』第 76-7 卷, 2009 年.
- Sudan Shakya 「The interpretation of Ādibuddha: as describe in the Nāmasaṃgīti commentaries」『印度學佛教學研究』第 58 卷第 3 号, 2010 年.
- Sudan SHAKYA 「Vasundharā と Vasudhārā」, 『印度學佛教學研究』第 59 卷, 2010 年.
- Naoko NISHIMURA “The mantra *g(h)ošád asi* in the Yajurveda” Münchener

- Studien zur Sprachwissenschaft 63, 2003 年 (2009 年刊行) .
- Naoko NISHIMURA “Change of the theory about Soma’s circulation in the Śatapatha-Brāhmaṇa”, 『印度學仏教学研究』第 57 卷第 3 号, 2009 年.
- 西村直子 「ヴェーダ文献における胎児の発生と輪廻説」『論集』第 36 号, 2009 年.
- 西村直子 “*āmikṣā* and *payasyā*: Processing of fermented milk in ancient India” 『印度學佛教学研究』第 59 卷, pp.10–16, 2011 年.
- 西村直子 「ヴェーダ文献における発酵乳と Soma の神話 — *sāmnāyya* を中心として」『論集』印度学宗教学会 第 37 号, pp.141–158, 2010 年 [2011 刊行]
- Naoko NISHIMURA “Vedic *āti-pavⁱ/pū*” 『印度學佛教学研究』第 60 卷, 第 3 号, pp.8–13, 2012 年 3 月.
- 西村直子 著書 (共著) 大島智靖・西村直子・後藤敏文「GAV — 古インド・アーリヤ語文献における牛 —」(中洋言語・考古・人類・民俗叢書 3), 総合地球環境学研究所 インダス・プロジェクト (167 ページ), 2012 年 3 月.
- 西村直子 「ヴェーダ文献における誕生の神話と儀礼 — 後産分娩を中心として」『論集』印度学宗教学会, 第 39 号, pp.(75)–(92), 2012 年 12 月.
- Naoko NISHIMURA “*úlba-* and *jarāyu-*: Foetal appendage in Veda”, *Journal of Indological Studies* 23, 印刷中.
- 西村直子 「Maitrāyaṇī Samhitā I 1,3^m (IV 1,3^p) — 新月祭・満月祭の *upavasatha* における搾乳と *dadhi* 製造」『奥田聖應先生斯学 50 年記念論集』, 印刷中.
- Naoko NISHIMURA “The Development of the New- and Full-Moon Sacrifice and the Yajurveda Schools: mantras, their brāhmaṇas, and the offerings „Proceedings of 5th International Vedic Workshop, 印刷中.
- Naoko NISHIMURA “Processing of dairy products in the Vedic ritual, compared with Pāli” Proceedings of 15th World Sanskrit Conference, Veda Session. 印刷中.
- Yumi FUJIMOTO “On rules of *Upasampadālocanā* in *Vyavahārabhāṣya* 1” 『印度學佛教学研究』第 60 卷, 第 3 号, 2011 年.
- 山田智輝 「R̥gveda VI 61 –Sarasvatī 讃歌–」『印度學佛教学研究』, 第 57 卷第 2 号, pp 844–847, 2009 年.

山田智輝 「R̥gvedaにおける Sarasvatī —RV VII 95,96 を中心に—」、『論集』 印度学宗教学会, 第 37 号, pp203–217, 2010 年

Tomoki YAMADA 「The Image of R̥gvedic Sarasvatī: RV VII 95, 96」 『印度學佛教學研究』, 第 59 卷第 3 号, pp1103–1108, 2011 年.

(2) 口頭発表

伊久間洋光 「『智光明莊嚴經』における如意宝珠の比喻」, 第52回印度学宗教学会学術大会, 金沢大学, 2009年5月.

伊久間洋光 「『智光明莊嚴經』について—『宝性論』「自然不休息仏業品」及び『性起經』との比較から—」, 日本印度学仏教学会第61回学術大会, 立正大学, 2010年9月.

伊久間洋光 「「智光明莊嚴經をめぐって—自性清浄心から如来蔵へ—」 豊山教学振興会第 39 回教学大会, 真言宗豊山派宗務庁舎 2010 年 11 月 5 日.

伊久間洋光 「『如来秘密經』と『勝天王般若』」 日本印度学仏教学会第 62 回学術大会, 龍谷大学, 2011年9月7日.

伊久間洋光 「『如来秘密經』について」 日本印度学仏教学会第 62 回学術大会 龍谷大学, 2011 年 9 月 7 日.

伊久間洋光 「『如来秘密經』と『勝天王般若』」, 豊山教学振興会第 40 回教学大会, 真言宗豊山派宗務庁舎, 2011 年 11 月 2 日.

伊久間洋光 「『如来秘密經』の梵文写本について」 日本印度学仏教学会第 63 回学術大会, 鶴見大学, 2012 年 6 月 30 日.

伊久間洋光 「『如来秘密經』の伝について」 豊山教学振興会第 41 回教学大会, 2012 年 11 月 2 日

伊久間洋光 「金剛手の授記—『如来秘密經』を中心に—」 日本密教学会第 46 回学術大会発表予定, 真言宗豊山派宗務庁舎, 2013 年 11 月.

Junichi OZONO “Pāṇinis Angaben zum Vedischen” 31. Deutscher Orientalistentag Marburg 2010 年 9 月 21 日.

Junichi OZONO “The periphrastic perfect in the Vedic language and Pāṇini’s Grammar” The Fifth International Vedic Workshop. Vedic śākhās: Past, Present and Future), Bucharest (Romania), 2011 年 9 月 23 日.

菊谷竜太 「ジュニャーナパーダ流と『秘密集会』 釈タントラ」 平成 23 年度密教研究会学術大会, 高野山大学, 2011 年 7 月 15 日.

- 菊谷竜太 「インド密教における『秘密集会タントラ』の受容と展開」
2011年度日本佛教学会学術大会，北海道大学，2011年8月31日。
- 菊谷竜太 「ジュニャーナパーダ流と『吉祥金剛心髓莊嚴タントラ』」
日本印度学佛教学会第62回学術大会，龍谷大学，2011年9月7日。
- 菊谷竜太 「空間と儀礼—チベットにおけるルーラン・キンコル（立体曼荼羅）について」平成24年度第1回空間史学研究会，東北大学，2012年4月24日。
- 菊谷竜太 「ツォンカパの臨終積『黄金の門を開く』について」第54回印度学宗教学会学術大会，東北福祉大学，2012年6月3日。
- 菊谷竜太 「Samputodbhavantra のテキストの伝承をめぐって—ツォンカパとの関わりから」平成24年度密教研究会学術大会，高野山大学，2012年6月8日。
- 菊谷竜太 「Samputodbhavantra 8-3 をめぐって」日本印度学佛教学会第63回学術大会，鶴見大学，2012年7月1日。
- 菊谷竜太 「蒙満における成就法と曼荼羅儀軌の相承—クンチョクジクメワンポを中心に」国際シンポジウム・チベット美術の過去現在未来，石川県立歴史博物館，2012年8月25日。
- 菊谷竜太 "On the Tradition of utpattikrama- in the Jñānapāda School ", The Vikramaśīla Workshop, 2012年9月18日，東京大学。
- 菊谷竜太 「Vajrāvalī における*Sārdhatriśatikā について」印度学宗教学会第55回学術大会，駒沢女子大学，2013年6月2日。
- 菊谷竜太 「インド密教における成就法と曼荼羅儀軌について」平成25年度密教研究学術大会，高野山大学，2013年7月12日。
- 菊谷竜太 「『四百五十頌』における観想法と儀礼について」日本印度学仏教学会第64回学術大会，島根県民会館，2013年8月31日。
- Ken'ichi KURANISHI "On the abhiṣeka ritual of Yamāri cycle" The 14th World Sanskrit Conference, 京都大学，2009年9月。
- 倉西憲一 「Māraṇa に関する一考察」，日本仏教学会，立正大学，2009年9月。
- Kenichi KURANISHI "Study on the Yantra. — in the Kṛṣṇayamāritantra —" International Indology Graduate Research Symposium, Oxford University 2009 9.27
- スダン・シャキヤ 「『ナーマサンギーティ』の註釈に見られる本初仏

- の解釈について」, 日本印度学仏教学会第 60 回学術大会, 大谷大学, 2009 年 9 月.
- スダン・シャキヤ 「ネパールの生き神クマーリー —ヒンドゥー教徒と仏教徒の信仰をめぐる—」, 第 53 回印度学宗教学会, 大阪国際大学, 2010 年 5 月.
- Sudan SHAKYA “The interpretation of twelve syllables of the *Nāmasaṃgīti*”, 12th Seminar of the International Association for Tibetan Studies, University of British Columbia, 2010.8.
- スダン・シャキヤ 「ネパールにおける Vasudhārā —Vasundharā と Vasudhārā—」, 日本印度学仏教学会第 61 回学術大会, 立正大学, 2010 年 9 月.
- 西村直子 「ヴェーダ文献における胎児の発生と輪廻説」第 52 回印度学宗教学会学術大会, 金沢大学, 2009 年 5 月.
- Naoko NISHIMURA “Some aspects of Vedic embryology” 14th World Sanskrit Conference, Kyoto University, 2009.9.
- 西村直子 「ヴェーダ文献における発酵乳加工」印度学宗教学会第 53 回学術大会, 大阪国際大学, 2010 年 5 月.
- Naoko NISHIMURA “*āmikṣā* and *payasyā*: Fermented milk in ancient India — Soma, Indra, and the milk—” 20th International Association for History of Religion World Congress, University of Toronto, 2010.8.19.
- 西村直子 「*āmikṣā* と *payasyā* —古代インドにおける酸乳加工への一視点」日本印度学仏教学会第 61 回学術大会, 立正大学, 2010 年 9 月.
- Naoko NISHIMURA “Cows and bulls in Old Indo-Aryan literature” (招待発表) インダス・プロジェクト国際シンポジウム “Environmental change and the Indus Civilization”, 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 (京都) 2011年8月.
- 西村直子 「Veda文献における動詞 *ati-pū*」 第62回 日本印度学仏教学会学術大会 龍谷大学 2011年9月.
- Naoko NISHIMURA “The Development of the New- and Full-Moon Sacrifice and the Yajurveda Schools: mantras, their brāhmaṇas, and the offerings.” 5th International Vedic Workshop Novotel, Centre of Eurasian and Afroasiatic Studies (CEAS) (Bucharest, Romania) 2011年9月.
- Naoko NISHIMURA “Processing of dairy products in the Vedic ritual,

compared with Pāli” 15th World Sanskrit Conference (Veda section)Rashtriya
Sanskrit Sansthan (RSkS) (New Delhi, India) 2012年1月.

西村直子「ヴェーダ文献における誕生の神話と儀礼」印度学宗教学会第54回
学術大会，東北福祉大学，2012年6月.

西村直子「Yajurveda 各学派の Samhitā における「搾乳と dadhi 製造」 mantra
集成の比較」インド思想史学会第19回学術大会，京都大学，2012年12
月.

西村直子「タイッティリーヤ・ブラーフマナにおける新月祭・満月祭のマン
トラ」印度学宗教学会第55回学術大会，駒沢女子大学，2013年6月.

藤本有美 「Vyavahārabhāṣya 第1章における upasam̐padālocanā の規定に
ついて」日本印度学仏教学会第61回学術大会，立正大学，2010年9月.

藤本有美 「Vyavahārabhāṣya 第1章の内容と構成について」ジャイナ教
研究会，大谷大学，2011年10月.

松村幸彦 「Ratnākaraśānti の説く観想法について—ヘーヴァジュラ系を中
心に—」印度学宗教学会第55回学術大会，駒沢女子大学，2013年6月.

山田智輝 「ネパール・ララ湖に伝わる神話を巡って」第53回印度学宗
教学会学術大会，大阪国際大学，2010年5月.

山田智輝 「リグヴェーダにおけるサラスヴァティーに関する記述を巡
って」日本印度学仏教学会第61回学術大会，立正大学，2010年9月.

山田智輝 「『リグヴェーダ』サラスヴァティー讃歌 VII 95, 96」イン
ダス・プロジェクト プロジェクトメンバー全体会議，総合地球環境学研
究所，2010年11月.

山田智輝 「R̥gveda における Sarasvant」日本印度学仏教学会第63回学
術大会，鶴見大学，2012年6月.

3 大学院生・学部生等の受賞状況

西村直子 第51回日本印度学仏教学会賞（2009年9月）

4 日本学術振興会研究員採択状況

2012年度，DC1，採用，1名，PD，採用，1名

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2009年度 大学院 ヴェルツブルク大学 ドイツ

5-2 留学生の受け入れ状況

年度	学部	大学院	計
09	1	0	1
10	2	0	2
11	1	0	1
12	0	0	0
13	0	0	0
計	4	0	4

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
12	1	0	1
13	0	0	0
計	1	0	1

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

林隆嗣（D 2003 単位取得退学），こども教育宝仙大学教授，2009 年
笠松直（D 2008 修了），仙台電波工業専門学校総合科学科専任講師，2009 年

7-2 専攻分野出身の高度職業人

2006-10 年度 国際交流基金 1 名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物（専攻分野刊行のもの）

『論集』（宗教学専攻分野と共催する印度学宗教学会の機関誌）毎年刊行

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2009年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・第52回学術大会，金沢大学，2009年5月30－31日

2010年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・第53回学術大会，大阪国際大学，2010年5月29－30日

2011年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）

2012年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・第54回学術大会，東北福祉大学，2012年6月2－3日

2013年度

- ・印度学宗教学会事務局（宗教学専攻分野と共同）
- ・第55回学術大会，駒沢女子大学，2013年6月1－2日

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

2009年5月15日 卒業論文・修士論文成果発表会

2011年11月18日 卒業論文成果・修士論文構想発表会

2012年10月26日 修士論文成果，および卒業論文・修士論文構想発表会

13 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

二名の専任教員のうち，吉水は古代のヴェーダや叙事詩が中世にまでどのように継承されて，新たにヒンドゥー教とインド哲学諸学派が成立し発展したのかに関して，また桜井はインドからチベットにかけて伝播していった仏教のうち，主にタントラ仏教に関して学生教育を進めている。現在在籍中の大学院生は，大乘仏教経典，仏教タントラ文献，初期仏教文献，ヴェーダ・タントラ思想書，ヨーガ思想書などを研究対象と

している。2009年4月には日本学術振興会外国人研究員として Sudan Shakya 氏を受け入れ、桜井と共に二カ年間の共同研究に入り、インド・ネパール密教の基盤を文献学的に考察した。

そもそも「インド学仏教史」の研究には「サンスクリット」、パーリ語、チベット語の訓練に時間と力を割くことが前提となるため、研究発表は数多くは望めない。参考文献を利用するために欧米言語の習得も必須である。博士論文には中核的テーマを正面から選ぶことが後の研究に重要であり、大学院生はこれに専念する必要がある。

2009年9月1日から9月5日にかけて京都大学で開かれた第14回世界サンスクリット会議を準備するために、吉水は、桂紹隆龍谷大学教授および Mark Siderits イリノイ州立大学教授と共に、哲学部会の部会招集者として発表希望者の選別審査に当たり、48名の発表者より成るプログラムを作成し、また自ら研究発表をした。他にヴェーダ部会で西村直子及び笠松直、および2012年3月末に定年退職して名誉教授となる後藤敏文が、タントリズム部会で倉西憲一が研究発表した。また会議終了後、吉水は桂教授および Siderits 教授と共同で哲学部会紀要の編集を開始し、2011年7月に、インド哲学専門の学術誌として世界的に評価の高い Journal of Indian Philosophy の一分冊として紀要を刊行することができた。

2011年3月11日に起きた東日本大震災の際には、本研究室は、文学研究科研究棟の最上階に位置するために最も揺れが激しく、全ての部屋の全ての書架から、最下段に至るまでの図書が飛び出して床に散乱し、多くの機材が落下し、壁に打ち付けてあった書架が壁から剥がれた。未曾有の危機の中で、助教の菊谷竜太は、2011年6月より研究助手となる尾園絢一とともに、懸命に研究室の復旧にあたり、4月には強い余震により再び図書が散乱するという困難を乗り越えて、5月の学期開始までに研究環境を元通りに回復することができたが、5月に開催予定であった印度学宗教学会学術大会は中止にせざるを得なかった。震災とその復旧作業のため研究室メンバーは皆、多大な労力を費やさざるを得なかったが、その間にも可能な限り研究を継続した。その一つの表れとして、2011年9月20日から23日にかけてルーマニアのブカレストで開かれた第5回国際ヴェーダ学ワークショップにおいて、後藤敏文と吉水の他に、西村直子と尾園絢一が研究発表を行い、いずれも堅実でかつ独創的な研究として好評を博した。

今後さらなる充実が望まれる分野としては、古代のヴェーダ文献、中世以降のインド文学と科学、中観と唯識を中心とする大乘仏教教理の研究、パーリ経典や大乘仏

典そのものの研究などが挙げられる。グローバル化する国際情勢の中で、インドは独自の文化を保ちつつ経済大国化への道を歩み始めている。今後益々国際社会で注目されていくインドの文化に関して、専門的研究のみならず一般教養の面においても、人文科学の観点からの正確な認識を学生に供するために、また意義ある研究成果を発表しつつも未だ定職につく機会を得ていない若手研究者を活用する意味からも、これらの分野での非常勤講師を確保することが重要である。

III 教員の研究活動（2009～2013 年度）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

Toshifumi GOTŌ “Der Optativ *bhrjyáyur* in den Yajurveda-Samhitās”, *Zarathushtra entre l’Inde et l’Iran, Études indo-iraniennes et indo-européennes offertes à Jean Kellens à l’occasion de son 65^e anniversaire*, ed. para É. Pirart et X. Tremblay. Wiesbaden. pp. 107–113. 2009.

後藤敏文 「『業』と『輪廻』ーヴェーダから仏教へ」北海道印度哲学会『印度哲学仏教学』24, pp. 16–41. 2009.

後藤敏文 「資料 『リグヴェーダ』 アパーム・ナパート 「水たちの孫」 讃歌」『水と火の神話ー「水中の火」』篠田知和基編（楽瑯書院），pp. 421–430. 2009.

Toshifumi GOTŌ “*Aśvin-* and *Nāsatya-* in the Rigveda and their Prehistoric Background”, *Linguistics, Archaeology and Human Past in South Asia*. Edited by Toshiki Osada, New Delhi, pp.199–226. 2009.

Toshifumi GOTŌ “Notizen zu den Verben in Yasna 9 (Hōm-Yašt)”, *Protolanguage and Prehistory. Akten der XII. Fachtagung der Indogermanischen Gesellschaft, vom 11. bis 15. Oktober 2005 in Krakau*. Herausg. von R. Lühr und S. Ziegler. Wiesbaden. pp.160–181. 2009.

Toshifumi GOTŌ “The Rigveda Dictionary from a modern viewpoint”, *From Past to Future: Graßmann’s Work in Context. Graßmann Bicentennial Conference, September 2009*. Eds.: H.-J. Petsche, A.C. Lewis, J. Liesen, S. Russ. Basel, pp. 363–376. 2011.

後藤敏文 「資料 ヴェーダ文献に見られるブルーラヴァス王と天女ウルヴァシーの物語」『愛の神話学』篠田知和基編，楽瑯書院（名古屋），

pp.435–480. 2011.

- 桜井宗信 「〈五相現等覚〉ノート—Jñānapāda 流成就法を中心として—」,
『智山学報』第 58 輯, pp.(37)-(53), 2009 年
- 桜井宗信 「Jñānapāda 流の伝える死者蘇生儀礼—Vitapāda の所説を中心
に—」, 『現代密教』第 20 号, pp.197-210, 2009 年
- 桜井宗信 「聖者流の伝える荼毘儀礼—ḥPhags pa lha (*Āryadeva) に帰
された著作を中心に—」, 『現代密教』第 21 号, pp.67-79, 2010 年
- 桜井宗信 「Bu ston の示す死者儀礼(1)—dPal mchog rDo rje sems dpa'i
sgo nas tha ma'i dus la bab pa rnams rjes su 'dsin pa'i cho ga を中心に —」,
『日本西蔵学会々報』第 57 号, pp1-16, 2011 年.
- 桜井宗信 「Kambalapāda (La ba pa) の『チャクラサンヴァラ成就法』
—その構成と観想法—」, 『密教図像』第 30 号, pp.1–18 (横組), 2011
年.
- 桜井宗信 「Bu ston の示す死者儀礼(2)—Mi 'khrugs pa'i cho ga la brten nas
ro'i sbyin sreg gi cho ga を中心に —」, 『日本西蔵学会々報』第 59 号 (2013
年 8 月刊行予定; 掲載決定済) .
- 桜井宗信 「Grags pa rgyal mtshan の示す死者儀礼」, 『密教図像』第 32
号 (2013 年 12 月刊行予定; 掲載決定済) .
- 吉水清孝 「クマーリラにおける語の意味と文脈」 『東北大学文学研究
科研究年報』 59, pp. 66-82. 2009.
- 吉水清孝 「『マヌ法典』註釈家 Bhārucci の paramātman 論」 『印度学仏
教学研究』第 59 巻第 1 号, pp. 297-302, 2010.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “Reconsidering the fragment of the *Bṛhaṭṭikā* on
restriction (*niyama*),” Helmut Krasser, Horst Lasic, Eli Franco, Birgit Kellner
(eds.), *Religion and Logic in Buddhist Philosophical Analysis. Proceedings of
the Fourth International Dharmakīrti Conference. Vienna, August 23–27, 2005.*
Wien, pp. 507–521, 2011.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “How to Refer to a Thing by a Word: Another
Difference between Dignāga’s and Kumārila’s Theories of Denotation,”
Journal of Indian Philosophy, vol. 39, no. 4-5, Special issue on 14th World
Sanskrit Conference, pp. 571-587, 2011.
- 吉水清孝 「シャンカラにおける瞑想の客体としての最高我 (paramā-
tman) について」 『論集』 (印度学宗教学会) 37, pp. 213-230, 2011.

- 吉水清孝 「中世初期における仏教思想の再形成—言説の理論をめぐる
バラモン教学との対立—」 『シリーズ大乘仏教』 2 (大乘仏教の誕生) ,
春秋社, pp. 231-266, 2011.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “Tradition and Reflection in Kumāṛila’s Last Stand
against the Grammarians’ Theories of Verbal Denotation,” *Saṃskṛtasādhitā*,
'Goodness of Sanskrit': Studies in Honour of Professor Ashok Aklujkar, New
Delhi: D. K. Printworld, pp. 552–586, 2012.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “Kumāṛila and Medhātithi on the Authority of Codified
Sources of *dharma*,” François Voegeli, Vincent Eltschinger, Danielle Feller, et.
all. (eds.): *Devadattīyam. Johannes Bronkhorst Felicitation Volume*, Bern:
Peter Lang, pp. 643–681, 2012.
- 吉水清孝 「クマーリラの寛容論」 『印度学仏教学研究』 第 60 卷第 2 号,
pp. 860-867, 2012.
- 吉水清孝 「クマーリラにおける個体中心の存在論—アリストテレスと
の比較による試論—」 『インド論理学研究』 第 5 号, pp. 1–46, 2012.
- Kiyotaka YOSHIMIZU “The *Jñānakarmasamuccaya-vāda* in the Commentaries
on the *Manusm* 糝 *Journal of Indian and Buddhist Studies* 61(3), pp.
1085–1092, 2013.
- 菊谷竜太 「ジュニャーナパーダ流における二次第をめぐる—ブツダシュリ
ージュニャーナパーダとヴィタパーダを中心に」 『東北大学文学研究科
研究年報』 第 60 号, 東北大学大学院文学研究科, pp.(1)–(23), 2010.
- Junichi Ozono “The periphrastic perfect in the Vedic language and Pāṇini’s
Grammar” *Proceedings of 5th International Vedic Workshop*, 印刷中.

1-2 著書・編著

- Toshifumi GOTŌ *Old-Indo-Aryan Morphology and its Indo-Iranian background*.
Österreichische Akademie der Wissenschaften. Wien, 217pp. (印刷中)
- Mark SIDERITS, Shoryu KATSURA and Kiyotaka YOSHIMIZU, *Journal of Indian
Philosophy*, vol. 39, no. 4-5, Special issue on the 14th World Sanskrit
Conference, 2011.

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

書評

吉水清孝 Iwao Shima, Teiji Sakata, Katsuyuki Ida (eds.), *The Historical Development of the Bhakti Movement in India. Theory and Practice. Japanese Studies on South Asia No. 8*, New Delhi: Manohar 2011, 『北陸宗教文化』25, pp. 127-131, 2012.

解説

後藤敏文 「(論文と解説)部族の火の東進 - 『ヴェーダ』の神話, 儀礼とその歴史的背景」後藤敏文, 山田智輝, 永ノ尾信吾 総合地球環境学研究所 2007 年度成果報告書 『環境変化とインダス文明』, プロジェクトリーダー 長田俊樹, pp.127-140, 2009.

後藤敏文 「ヴェーダ時代のサラスヴァティー河をめぐって」後藤敏文, 山田智輝, 永ノ尾信吾 総合地球環境学研究所 2007 年度成果報告書 『環境変化とインダス文明』, プロジェクトリーダー 長田俊樹, pp.115-118. 2009.

後藤敏文 「古代インド文献に見る天空地」 『天空の神話 - 風と鳥と星』篠田知和基篇, 楽瑯書院, pp.107-125. 2009.

後藤敏文 「インドの天空, そして大地」 『アジア遊学』121, 特集「天空の神話学」, 勉誠出版, pp.18-25. 2009.

後藤敏文 「インド学へのいざない [1] インド学とは」月刊 『言語』, 大修館, 2009 年 (Vol. 38) 4 月号, pp.66-71.

後藤敏文 「インド学へのいざない [2] リグヴェーダ」月刊 『言語』, 大修館, 2009 年 (Vol. 38) 5 月号, pp.80-85.

後藤敏文 「インド学へのいざない [3] ブラーフマナからウパニシャッドへ」月刊 『言語』, 大修館, 2009 年 (Vol. 38) 6 月号, pp.80-85.

後藤敏文 「インド学へのいざない [4] 仏教の成立」月刊 『言語』, 大修館, 2009 年 (Vol. 38) 7 月号, pp.80-85.

後藤敏文 「インド学へのいざない [5] パーニニのサンスクリット文典と古典期の諸文献」月刊 『言語』, 大修館, 2009 年 (Vol. 38) 8 月号, pp.82-87.

後藤敏文 「インド学へのいざない [6] 入門インド学」月刊 『言語』, 大修館, 2009 年 (Vol. 38) 9 月号, pp.80-85.

後藤敏文 「ヴェーダとインド・ヨーロッパ語族の文化」新アジア仏教史』01 インド I 『仏教出現の背景』佼成出版社 (奈良康明, 下田正弘編),

pp. 174–177. 2010

後藤敏文 「ぶじ往還の記」インダス・プロジェクト ニュースレター第
7号, 総合地球環境学研究所, プロジェクトリーダー長田俊樹, 2010年
8月5日, pp. 2–8.

吉水清孝 「後藤敏文教授の業績と学風」『文化』(東北大学文学会),
第75巻3–4号, pp. 109–114, 2012.

1–4 口頭発表

Toshifumi GOTŌ “Grammatical irregularities in the Rigveda, Book IV”, 14th
World Sanskrit Conference, Kyoto, 1–5 September 2009. (Linguistics Section)

Toshifumi GOTŌ “On the Mārtāṇḍa myth in Rigveda X 72”, 14th World Sanskrit
Conference, Kyoto, 1–5 September 2009. (Veda Section)

Toshifumi GOTŌ “Das Wörterbuch zum Rigveda aus heutiger Sicht”, From Past to
Futre: Grassmann’s Work in Context. Grassmann Bicentennial Conference
(1809–1877), Potsdam / Szcecin, 16–19 September 2009.

Toshifumi GOTŌ “Vedische Befunde zur Einwanderung der Āryas”, Arbeitstagung
der Indogermanischen Gesellschaft 2009: Die Ausbreitung des
Indogermanischen. Thesen aus Sprachwissenschaft, Archäologie und Genetik,
Würzburg, 24–26 September 2009.

後藤敏文 「アパーム・ナパート「水たちの孫」再考」, 荷車と小屋住まい:
ŚB *śālām as*], 日本印度学仏教学会第61回学術大会, 東京(立正大学),
2010年9月10日.

後藤敏文 「『業と輪廻』をさかのぼる」佼成学園, 2011年2月16日
(講演)

後藤敏文 「『業と輪廻』をさかのぼるーヴェーダと仏教」叡山学院,
2011年6月23日(学会講演)

後藤敏文 「ヴェーダ文献における『輪廻と業』」龍谷大学, 2011年7
月21日(公開講演)

Toshifumi GOTŌ “A survey of some evidences for the development of
Yajurveda and Brāhmaṇa texts”, The Fifth International Vedic Workshop.
Vedic śākhās: Past, Present and Future), Bucharest (Romania), 20–23
September 2011.

後藤敏文 「ヴェーダ文献に於ける個人」東方学会シンポジウム「古代

インドに於ける個の自覚と自律」(中谷英明主宰), 日本教育会館(東京), 2011年11月4日.

桜井宗信 「Bu ston の示す死者儀礼—dPal mchog rDo rje sems dpa'i sgo nas tha ma'i dus la bab pa rnams rjes su 'dsin pa'i cho ga を中心に—」, 第58回日本チベット学会大会, 東京都文京区(東洋大学), 2010年11月6日

桜井宗信 「La ba pa に帰される『チャクラサンヴァラ成就法』—その構成と特徴—」, 第30回密教図像学会学術大会, 徳島市(四国大学交流プラザ), 2010年12月11日

桜井宗信 「Bu ston の示す茶毘儀礼—Mi 'khrugs pa'i cho ga la brten nas ro'i sbyin sreg gi cho ga を中心に—」, 第60回日本チベット学会大会, 茨城県つくば市(筑波大学), 2012年10月20日

桜井宗信 「タクパギエンツェンの示す死者儀礼」, 第32回密教図像学会学術大会, 京都市(龍谷大学), 2012年11月17日

吉水清孝 「クマーリラにおける語の意味表示と文脈」印度学宗教学会第52回学術大会, 金沢(金沢大学), 2009年5月31日.

Kiyotaka YOSHIMIZU "How to refer to a thing by a word: Another difference in the theories of denotation between Dignāga and Kumāriila," 14th World Sanskrit Conference, Kyoto University, 1-5 September 2009, 2009年9月5日.

吉水清孝 「ヴェーダーンタ思想における最高我(paramātman)について」印度学宗教学会第53回学術大会, 大阪(大阪国際大学), 2010年5月30日.

吉水清孝 「『マヌ法典』註釈家 Bhārucci の paramātman 論」日本印度学仏教学会第61回学術大会, 東京(立正大学), 2010年9月11日.

吉水清孝 「法源論から見たクマーリラの(大乘)仏教批判」東方学会第56回国際東方学者会議, 東京(日本教育会館), 2011年5月20日.

吉水清孝 「クマーリラの寛容論」日本印度学仏教学会第62回学術大会, 京都(龍谷大学), 2011年9月7日.

Kiyotaka YOSHIMIZU "Tolerance and Intolerance in Kumāriila's Views on the Vedic śākhā," The 5th International Vedic Workshop, Bucharest, 20-23 September 2011, 2011年9月23日.

吉水清孝 「クマーリラと Pañcaviṃśabrahmaṇa」印度学宗教学会第54回学術大会, 仙台(東北福祉大学), 2012年6月3日.

吉水清孝 「『マヌ法典』註釈家の知行併合論」日本印度学仏教学会第

63 回学術大会, 横浜 (鶴見大学), 2012 年 7 月 1 日.

Kiyotaka YOSHIMIZU “Kumārila and his Quotations from the *Pañcaviṃśa-brāhmaṇa*,” (Japan-Austria International Symposium on “Tradition and Transmission. The Meaning and the Role of “Fragments” in Indian Philosophy,” Matsumoto, Japan), 20-24 August 2012, 2012 年 8 月 24 日.

吉水清孝 「ミーマーンサーにおける Yajurveda 中心主義について」, 印度学宗教学会第 55 回学術大会, 駒沢女子大学, 2013 年 6 月 2 日.

吉水清孝 「『カテゴリー論』における実体 (ousía) ・普遍・個体について」科学研究費補助金基盤研究(A)「インド哲学諸派における〈存在〉をめぐる議論の解明」2013 年度合同研究会, 名古屋大学文学部, 2013 年 8 月 23 日.

吉水清孝 「神格 (devatā) の同一性と区別についてのミーマーンサー的考察」日本印度学仏教学会第 64 回学術大会, 島根県民会館 (松江市), 2013 年 8 月 31 日.

吉水清孝 「ミーマーンサー・ヴェーダーンタ存在論における bhedābheda をめぐって」日本印度学仏教学会第 64 回学術大会, 島根県民会館 (松江市), 2013 年 9 月 1 日.

菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流の生起次第をめぐって —Buddhaśrījñāna, Dīpaṅkarabhadra, *Viḍapāda—」第 52 回印度学宗教学会学術大会, 金沢大学, 2009 年 5 月.

菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流の生起次第をめぐって」, 平成 21 年度密教研究会学術大会, 高野山大学, 2009 年 7 月.

菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流の生起次第をめぐって —『普賢成就法』と『四百五十頌』—」日本印度学仏教学会第 60 回学術大会, 大谷大学, 2009 年 9 月.

菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流における守護尊の受容と展開」第 53 回印度学宗教学会学術大会, 大阪国際大学, 2010 年 5 月.

菊谷竜太「ジュニャーナパーダ流の生起次第の伝承をめぐって」, 平成 22 年度密教研究会学術大会, 高野山大学, 2010 年 7 月.

尾園絢一「パーニニが記述する Desideraiv の語幹形成について」インド思想史学会第 19 回学術大会, 2012 年 12 月 22 日

尾園絢一「Pāṇini VI 1,27 ś ~~ī~~ pāke」第 53 回印度学宗教学会学術大会, 駒沢女子大学, 2013 年 6 月 2 日.

2 教員の受賞歴（2009～2013 年度）

なし

IV 教員による競争的資金獲得（2009～2013 年度）

（1） 科学研究費補助金

- 2007 年度－2010 年度 科学研究費補助金基盤研究 (B), 後藤敏文 (研究代表者)
「リグヴェーダ翻訳研究」課題番号 19320009, 10,140,000 円(4 年間総額)
- 2009 年度－2010 年度 科学研究費補助金特別研究員奨励費, 桜井宗信(研究代表者)「ネパール仏教文化史の総合的研究」課題番号 21-09002, 1,500,000 円(2 年間総額)
- 2009 年度－2011 年度 科学研究費補助金基盤研究 (C), 桜井宗信 (研究代表者)
「密教流伝史研究－インド・チベット密教翻訳僧データベースの構築－」課題番号 21520053-00, 2,300,000 円(3 年間総額)
- 2010－2012 年度科学研究費補助金基盤研究(C), 吉水清孝 (研究代表者) 「マヌ法典註釈における法源論の研究－聖典解釈学との関係を中心に」課題番号 22520050, 3,100,000 円(3 年間総額)
- 2010－2012 年度科学研究費補助金若手研究(B), 菊谷竜太 (研究代表者) 「インド密教流派形成史におけるマンダラ儀礼の総合的研究」課題番号 22720022, 1,500,000 円(2010 年度配分額)
- 2010 年度－2013 年度科学研究費補助金基盤研究(B), 桜井宗信(研究分担者)「ヴィクラマシーラ寺院の学僧著作群における密教思想の位置づけに関する総合的研究」課題番号 22320014, 600,000 円(2010 年度配分額), 350,000 円(2011 年度配分額), 150,000 円(2012 年度配分額), 150,000 円(2013 年度配分額)
- 2011 年度－2014 年度科学研究費補助金基盤研究(S), 桜井宗信 (研究分担者)
「仏教用語の現代基準訳語集および定義的用例集 (バウッダコーシャ) の構築」課題番号 23222001, 1,250,000 円 (2011 年度配分額), 1,250,000 円 (2012 年度配分額), 750,000 円 (2013 年度配分額)
- 2011 年度－2013 年度科学研究費補助金基盤研究 (C), 後藤敏文 (研究代表者)
「『業と輪廻』理論成立史に関する原典研究」課題番号 23520063, 900,000 円 (2011 年度配分額)
- 2011 年度－2014 年度科学研究費補助金基盤研究(A), 吉水清孝 (研究分担者)
「インド哲学諸派における〈存在〉をめぐる議論の解明」課題番号

23242004, 700,000 円(2011 年度配分額), 650,000 円(2012 年度配分額),
600,000 円(2013 年度配分額)

2011 年度－2012 年度科学研究費補助金研究活動スタート支援, 尾園絢一(研究代
表者)「パーニニが言及する重複語幹動詞の研究」課題番号 23820005,
600,000 円(2011 年度配分額), 600,000 円(2012 年度配分額)

2013 年度－2015 年度科学研究費補助金基盤研究 (C), 吉水清孝(研究代表者)
「インド聖典解釈学派における寛容の実際の研究」課題番号 25370056,
1,000,000 円(2013 年度配分額)

2013 年度－2016 年度科学研究費補助金基盤研究 (C), 桜井宗信(研究代表者)
「ルーイーパーダ流「成就」実践の研究－チベットにおける受容と展開の
解明－」課題番号 25370055, 3,700,000 円(4 年間総額), 1,000,000 円
(2013 年度配分額)

(2) その他

2010 年度 平成 21-22 年度東北アジア研究センター共同研究助成, 菊谷
竜太(研究代表者)「東北アジアにおけるシャマニズムをめぐる学
際的研究」, 300,000 円

V 教員による社会貢献(2009～2013 年度)

後藤敏文 「古代インド文献に見る天・空・地」比較神話学シンポジウ
ム「天空の神話」, 2009 年 1 月

後藤敏文 「『業と輪廻』をさかのぼる－ヴェーダ文献とことばの力」
第 54 回智積院暁天講座, 2010 年 8 月 3 日

桜井宗信 真言宗智山派伝法院客員講師: 「インド仏教学」. 2008(平成
20)年 6 月－2011 年 3 月 (※「『悪趣浄化タントラ』チベット語訳校訂
テキスト整定」研究会の主宰)

桜井宗信 「インド学仏教史から見える日本 河口慧海とチベット～仏
教探求への眼差し～」, 平成 21 年度千賀の浦大学 5 月学習会(主催: 塩
竈市生涯学習センター) 講師, 2009 年 5 月

桜井宗信 「インド・チベット仏教と死者供養—葬儀と追善—」, 平成
21 年度真言宗智山派山形村山置賜教区合同講習会講師, 2009 年 8 月

桜井宗信 「河口慧海と仏教文献学—彼をチベットへ駆り立てたもの

- ー」，平成 22 年度みやぎ県民大学講師，2010 年 9 月
- 吉水清孝 「三蔵法師玄奘が学んだナーランダーの地域と大学」，有備館講座（第 11 期）「地域再考」大崎市岩出山スコーレハウス，2012 年 9 月 15 日.
- 吉水清孝 「インド思想の人間観ーバラモン法典，仏教，ヒンドゥー教の場合」，平成 25 年度みやぎ県民大学講師，2013 年 9 月 14 日.

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2009～2013 年度）

後藤敏文

日本印度学仏教学会評議員	1991 年度ー現在
日本印度学仏教学会理事	1991 年度ー1996 年度, 2002 年度ー2011 年度
日本仏教学会理事	1991 年度ー1996 年度, 2002 年度ー2004 年度
印度学宗教学会常務理事	1997 年度ー現在
印度学宗教学会会長	2008 年 6 月ー2010 年 5 月
インド思想史学会理事	1993 年度ー現在
Indogermanische Gesellschaft, Beirat (印欧語学会, 顧問)	2004 年 11 月ー現在
同編集企画委員	2007 年度ー現在
Mitglied des Münchener Sprachwissenschaftlichen Studienkreises	2000 年ー現在
Historische Sprachforschung 編集顧問	2008 年度ー現在

桜井宗信

日本印度学仏教学会評議員	1999 年度ー現在
印度学宗教学会常務理事	1999 年度ー現在
日本仏教学会理事	2005 年度ー現在
仏教思想学会評議員	2006 年度ー現在
日本西蔵学会委員	2006 年度ー現在
密教研究会理事	2006 年度ー現在
印度学宗教学会会長	2012 年 6 月ー現在
日本宗教学会評議員	2013 年度新任

吉水清孝

日本印度学仏教学会評議員	2009 年度ー現在
--------------	------------

日本印度学仏教学会理事	2012 年度－現在
インド思想史学会評議員	2001 年度－2004 年度
インド思想史学会理事	2005 年度－現在
印度学宗教学会常務理事	2008 年度－現在
北海道印度学仏教学会評議員	2007 年度－2009 年度

VII 教員の教育活動

(1)学内授業担当（2013 年度）

1 大学院授業担当

桜井宗信 教授

インド仏教史特論 I	チベット密教文献研究 (1)
インド仏教史特論 II	チベット密教文献研究 (2)
インド仏教史研究演習 I	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読(1)
インド仏教史研究演習 II	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読 (2)

吉水清孝 教授

インド学特論 I	ヒンドゥー教文献講読 (1) (Mahābhārata)
インド学特論 II	ヒンドゥー教文献講読 (2) (Mahābhārata)
インド学研究演習 I	インド哲学文献研究 (1) (ソーマ祭式文献)
インド学研究演習 II	インド哲学文献研究 (2) (ソーマ祭式文献)

2 学部授業担当

桜井宗信 教授

インド仏教史概論(前期)	インド仏教史概説(1)
インド仏教史概論(後期)	インド仏教史概説(2)
インド仏教史各論(前期)	チベット密教文献研究 (1)
インド仏教史各論(後期)	チベット密教文献研究 (2)
インド仏教史演習(前期)	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読
インド仏教史演習(後期)	梵蔵漢三本対照による『俱舎論』の講読
チベット語 (前期)	「古典チベット語初級文法 I」
チベット語 (後期)	「古典チベット語初級文法 II」

吉水清孝 教授

インド学概論（前期）	ヴェーダから叙事詩へ
インド学概論（後期）	インド哲学とヒンドゥー教
インド学基礎演習（前期）	ヒンドゥー教文献入門（Bhagavadgītā）
インド学各論（前期）	ヒンドゥー教文献講読（1）（Mahābhārata）
インド学各論（後期）	ヒンドゥー教文献講読（2）（Mahābhārata）
インド学演習（前期）	インド哲学文献研究（1）（ソーマ祭式文献）
インド学演習（後期）	インド哲学文献研究（2）（ソーマ祭式文献）

尾園絢一 助教

サンスクリット語（後期） サンスクリット語基礎演習（2）

3 共通科目・全学科目授業担当

吉水清孝 教授

人文社会科学総論 インド学仏教史専修分1 齣

尾園絢一 助教

基礎ゼミ（前期） インド文化入門

(2)他大学への出講（2008～2013 年度）

後藤敏文 教授

総合地球環境学研究所共同研究員（2004 年 6 月－現在）

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員（2004 年度－2009 年
度）

京都大学人文科学研究所研究班班員（1995 年度－現在）

大阪大学大学院文学研究科非常勤講師（2010 年度）

京都大学大学院文学研究科，文学部非常勤講師（2011 年度）

桜井宗信 教授

大阪大学大学院非常勤講師（2009 年度）